

平成21年度安曇野市健康づくり推進協議会（第1回） 会議概要

- 1 審議会名.....平成21年度安曇野市健康づくり推進協議会（第1回）会議
- 2 日.....時.....平成21年7月1日.....午後1時30分から午後2時50分まで
- 3 会.....場.....穂高健康支援センター 集団指導室
- 4 出席者.....高橋委員、上條委員、望月委員、長瀬委員、内田委員、浅川委員、青柳委員、竹内委員、百瀬委員、重野委員、藤森委員、細萱委員、千國委員、竹岡委員（欠席者：三沢委員）
- 5 市側出席者.....丸山健康福祉部長、松澤健康推進課長、川崎課長補佐、高橋保健師、久保田保健師、百瀬保健師、笠井歯科衛生士、関主査
- 6 公開・非公開の別.....公開
- 7 傍聴人.....0人.....記者.....0人
- 8 会議概要作成年月日.....平成21年7月2日

協 議 事 項 等

1 会議概要

- 1 開会
- 2 委員の委嘱
- 3 会長挨拶
- 4 自己紹介
- 5 協議事項

- (1) 平成20年度保健事業報告について
- (2) 新型インフルエンザ対策について
- (3) 安曇野市食育推進計画について
- (4) その他

6 閉会

2 協議概要

- (1) 平成20年度保健事業報告について（事務局説明）

(委 員) 健康教室で、三郷で行われていないようだがなぜか。三郷の人はどこに参加しているのか。

(事務局) 全市民を対象としているが、会場は3地域で行った。他事業でもそのような方法をとっている。三郷の方は豊科や穂高等都合のよい会場で参加したりしている。

(委 員) 国保の医療費が高くなっているが、詳細がわからない。数値を分析してなぜ増えているのか等明確にしてほしい。

(委 員) 同じく。なぜ、何がこの伸び率の要因となっているのか分析してほしい。

(事務局) より詳細なまとめをするようにしたい。

(委 員) 肺がんCT検診についてだが、この受診数というのは、多いのか、また検診の成果はどうか。

(事務局) 例えば、喫煙歴がある方は毎年受診した方がよいが、喫煙なければ毎年の検診でなくてもよい。実際受診するのは、リスクが少なく毎年受診している方が多いため発見率は減少するということもある。今後はリスクの高い方たちにも働きかけをしていきたい。

(委員) もっとPRをしてほしい。
(会長) 定員に対して受診はどうか。
(事務局) こちらで設けた定員には満たない状況

(委員) 人間ドックについて。市から助成を受けているからとって、検診結果まで市に提出しなくてはいけないのはなぜか？

(事務局) がん検診等の結果はこちらでは必要ではないと思われるが、特定健診の実施率にドック受診者も反映できるから。必須項目以外は必要ないが、コピーとなると、他の項目も一緒となる。

(委員) 健康体操教室参加後、自主グループを作り活動しているが、効果が大きい。男性は教室への参加が少ないが、男性への対策は？

(事務局) 今年度より、男性の体操教室を実施している。

(委員) その教室終了後は自主グループにしたりする予定はあるのか。

(事務局) 参加者等の希望も聞き、今後検討する。

(2) 新型インフルエンザ対策について

(健康推進課長)

昨日の時点で、日本の新型インフルエンザ感染者は1266人に、県では9名になった。今回のウイルスは感染力は強いが、毒性は弱い、また慢性疾患患者や妊婦が感染すると重症化すること也被言われている。予防は、不要不急の外出を控えること、うがい手洗い、マスクとなる。現在は、季節性インフルエンザのワクチンを製造しているが、7月中旬からは新型インフルエンザのワクチンを製造する予定。

6月19日、厚生労働省は、新型インフルエンザの運用指針を出した。秋冬に患者が大幅にでるのではないかとのこと。対応としては、1 患者は自宅で療養。2、基礎疾患、乳幼児、妊婦等にはタミフルを使用。3、全医療機関で診療を行うこと。4、重症者は入院。5、学校の休校等は都道府県が必要に応じて行う。6、患者の全数調査はしない。7、ウイルスが変異し病原性が高くなれば再度指針を見直す。

今後の対応は、症状のあるものは、かかりつけ医に電話をして、マスクをつけて受診をする。7月中旬で全数報告は取りやめ。市としては、新型インフルエンザが蔓延し、各医療機関で対応ができなくなったら、日赤の発熱外来への協力を行う。人的・物的な協力をし、市民を守るように努める。

本日の資料にある、市で作成した行動計画、対策は強毒性の鳥インフルエンザを想定しており、変更する予定はないが、これを弾力的に運営したい。

(会長) 医療機関が麻痺したとき等は、日赤の北側で発熱外来を行う予定

(3) 安曇野市食育推進計画について

(事務局) 4月にダイジェスト版を全戸配布した。策定方法は、庁内3部会を基に、庁内検討委員会、その後学識経験者をいれた推進会議を開催。今年は1年目であり、市にあった食育というのがどのようなものか知ってもらうため、講演会を実施することとキャラクターを募集する予定。庁内、関係団体と連携をとっていきたい。

(委員) アンケートを見ると、食事を大人と一緒にとる子が減っているが、その要因は？要因別の数値があった方が、その要因一つ一つの解決策を考えることができるのではないか。そのようにすれば、目標値の設定もかわってくる。目標の立て方が甘いのでは？

(事務局) 小・中学生に関しては、給食教諭からの集計をもとにしている。目標値については現場からあげてもらったもの。要因については後日お示ししたい。

(委員) 大人と一緒に食事をとる児の減少に対し、それを食い止め、多くしていこうという意気込み、対応が見えてこない。

(委員) 保育園と幼稚園。なぜ目標が違うのか。同じ住民なのに・・・。

(事務局) それぞれの園の設置の目的、指針が違う。養護と教育の違い。庁内会議で共有していきたい。

(委員) 同じ子どもだから・・・。共通したものにしてほしい・・・。

(会長) すり合わせていくということでしょうね。

(会長) 地域で、食育への関心が高いグループとの連携はしているか？

(事務局) 市では、食改、直売所等市で関係がある団体とは連携している。今後多方面も働きかけたい。

(委員) 先日安曇野テレビで、園での給食の様子を放映していたが、素晴らしいと思った。園での指導により、偏食が減ったり、歯磨きの習慣がつくのではないか。

(事務局) 園でも歯磨きについては取り組んでいる。未満児は歯ブラシになれることから。3歳からはブクブクうがいから。庁内会議で歯磨きの全園での取り組みに関して話をしていきたい。

(4) その他

特になし